



新春の阿波路を駆け抜ける「第59回徳島駅伝」が1月4日から3日間開催され、16郡市のランナーが健脚を競いました。メダル奪取に挑んだ阿南市でしたが、結果は6位。ただ、上位3チームとは僅差で、来年での巻き返しを誓いました。

今回の駅伝は、3位美馬市と6位阿南市とのタイム差、8分21秒内に、板野郡と小松島市の4チームがひしめく熾烈な3位争いが繰り広げられました。阿南市は、期待の選手が十分な力を発揮できない中でも、一昨年（南方那賀コースの3日間）の総合タイムを22秒上回るなど総合力でカバー。解団式で岩浅市長は、選手全員の健闘をたたえようと、一団結力をさらに高め、来る60回記念大会で雪辱を果たしましょう。」と激励。林監督は「1つのレースの終わりは次のレースの始まり。選手の強化策を練り直し、さらなるチーム強化に努めたい。」と、リベンジへの号砲を鳴らしました。

「歓喜のゴールで息子を抱きかかえたい。」（武谷主将）「数藤選手と岩浅選手との大学生トリオで区間賞と女子総合優勝を取ります。」（折野選手）「高校男子で5つの区間賞を取ります。」（大羽選手）「先生の応援がうれしかった。来年もチームの力になりたいです。」（助田選手）

リベンジに燃える選手たちの力強い言葉とともに、今年のレースを写真で振り返りたいと思います。

徳島駅伝

59回 徳島駅伝